

お知らせ

下諏訪町ボランティア連絡協議会 創立20周年記念事業

〈20周年記念講演会〉

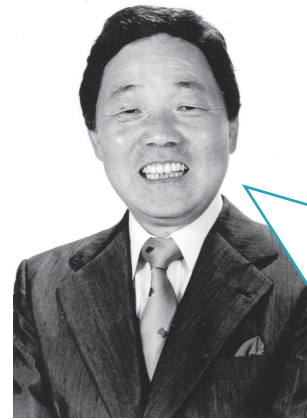
と き 平成23年9月3日(土)
午後1時00分～午後3時00分
ところ 下諏訪町老人福祉センター 2階 集会室
入場無料
演 題 「人生いろいろ」
講 師 元漫才師 春日三球 先生

〈ボランティア団体活動紹介パネル展示〉

と き 平成23年9月6日(火)～9月11日(日)
ところ 下諏訪総合文化センター 展示コーナー
内 容 下諏訪町ボランティア連絡協議会会員団体などの活動を地域の皆様に周知することを目的に、パネルの展示をします。

一般の方々のご来場も
お待ちしております!!

駐車場に限りがございますので、
公共機関などをご利用ください。



地下鉄の電車って
どこから入れるんですかね〜。
そんなこと考えると
夜も眠れなくなっちゃう!

ご参加お待ち
しています!!

ふれあい列車すわ

～別所線に乗って、
北向観音に行こう!!～



開催日：10月15日(土)
対象者：普段外に出かけられない方
(障害をお持ちの方、交通手段のない方など)
行き先：長野県 東信地方
(北向観音、佐久市子ども未来館 他)

詳しくは、こちらまで



ふれあい列車すわ
代表 後藤 裕司
TEL 57-2382

ボランティアって大変そう…」
「忙しくて時間がな～い!!」
「でも何かしたい!!」

それなら 収集ボランティアはいかがですか?



〈下諏訪町社協で収集しているもの〉

「使用済み切手」
「使用済みテレカ」
「ペットボトルキャップ」



※集めたものは、広域的な収集団体に送り、
国内外の福祉に役立てられています。

「アルミ缶」



※集めたものは、換金され、老人
福祉センター利用者のお茶など
に利用しています。

寄稿

知ってほしい

わが愛しの

い せい じん
偉星人

その73

偉星人と防災 Part. 2

震災弱者である偉星人たちにとっては、避難所ですぎつぎに起こる新しいできごとを受け入れていくのは並大抵ではない…。

家の偉星人に至っては、昨日までドアを開けて寝ていたのを閉めて寝なくてはならなくなっただけでも、パニックに陥るほどである。こんな子が避難所でどうやってすごしていかれるだろう…と途方にくれる。

後、身体感覚が敏感だったり鈍感だったりする偉星人も多い。ある女の子は肋骨を折っていたのに、1週間もそれを伝えるすべもなく過ごした。痛みを表現する手立てを持っていない偉星人もいるのだ。周りで、なんだか顔色が悪い、具合が悪そうだ…と言いながらも、そこまでのコミュニケーションを成立させることが難しいのだ。赤ん坊も、他のハンディキャップを持つ人もきっとそうなのだと思う。

でも、こういう方たちがいる…ということを知るだけで、我々にできることが少しずつ見えてくる。前回に続いて…偉星人の持つ困難さを紹介したい。

C. 困っていることが伝えられない (コミュニケーション・対人関係が困難)

- ・話し言葉を持たない場合もある
- ・声をかけても反応しなかったり、オウム返しだったりする
- ・集団行動が難しく、一斉の声かけが自分に向けられていることがわからない → 個別に声かけが必要



例：わが家の偉星人の場合

簡単な単語をつなげるようにして、できたら実物も見せながら「ご飯 食べましょう」などと伝えて下さい。

D. 感覚の過敏・感覚の鈍さ (身体感覚が私たちと違う・またそれを伝えにくい)

- ・大きな声や得体の知れない音におびえる
- ・子供の泣き声で耳をふさぐ
- ・身体に触られることを嫌がる



例：わが家の偉星人の場合

音が気になって落ち着かない様なら、静かな場所へ移動させてクールダウンするか、イヤホンなどで音を遮断する。怪我などが疑われる場合は、身体イメージがつかめるように、人体のイラストなど見せながら、「ひじ 痛いですか？」などと聞いてゆく。

参考文献：自閉症の人たちのための防災ハンドブック 社団法人 日本自閉症協会

※編集にあたり、加筆・修正しております。

(下諏訪地区障害を持つ親の会 会員)